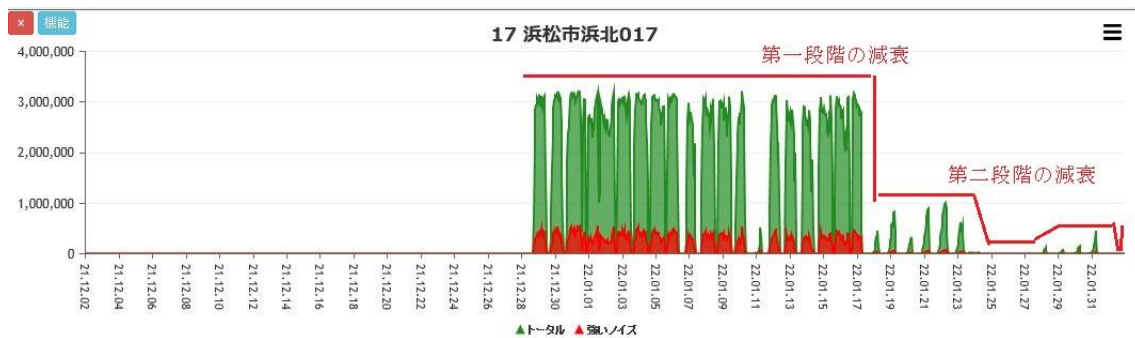


浜北 017 は昨年 12 月末に急に MAX300 万を超える大変に大きな幅のある 1 本立ち状のデータが約 20 本近くでて、警戒状態となりました。その後、今年の 1 月 17 日ごろになり MAX100 万ほどの 1 本立ち状のデータが約 7 本ほど出た、第一段階の減衰が起きました。さらに 1 月 28 日ごろから MAX40 万ほどの散発的な 1 本立ちが 4 本出た第 2 段階の減衰になっています。また浜北 355 も 1 月 6 日ごろ MAX40 万を超える大きな値を出して、減衰一収束傾向になってきています。

またここへきて、いままでは別の動きをしていて関連がないと考えていた、和歌山一A の長期データが減衰一収束傾向になっています。和歌山一A については約 1 年間続いた長期のデータが減衰して昨年 12 月 3 日に紀伊水道 M5.4 が発生しましたが、再度減衰一収束の傾向がみられます。

仮に浜北 017、浜北 355、和歌山一A が同期して 1 つの地震を捉えているとすると、浜松から和歌山の間、内陸では愛知、三重、海側では熊野灘などに大地震の可能性ががあります。この中間には伊勢 E,D、C330、三重志摩の観測点がありますが、どれもデータは大きいものの、なぜか減衰一収束傾向は見られません。しかし浜北 017 の大変大きなデータが収束してきたことにより、中部、東海地区の太平洋側に、M6 を超える大地震の発生が近々、考えられます。明日 2 月 1 日は新月で、大地震のトリガーにもかかることから、中部、東海地区は十分な注意が必要です。

浜北 017 60 日間データ



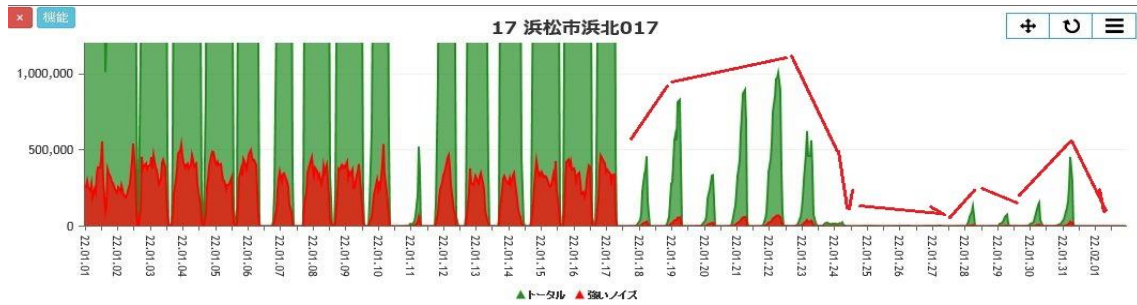
浜北 017 365 日間データ (日毎)



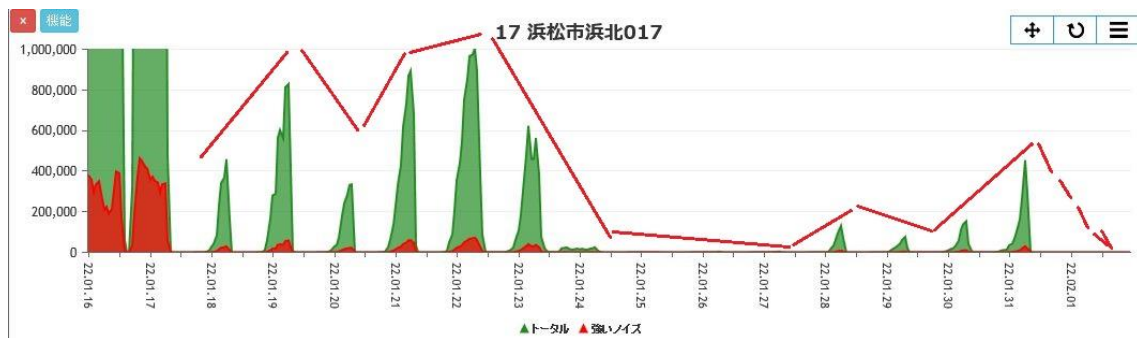
浜北 017 浜北 017 365 日間データ (日毎 拡大)



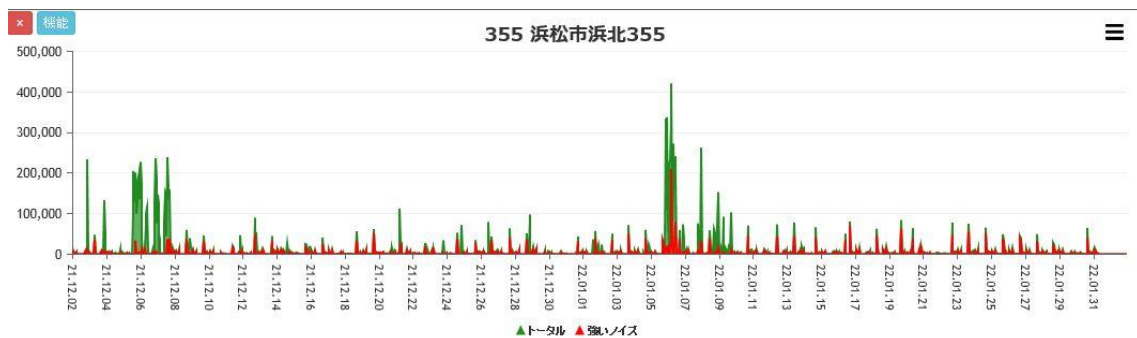
浜北 017 30 日間データ



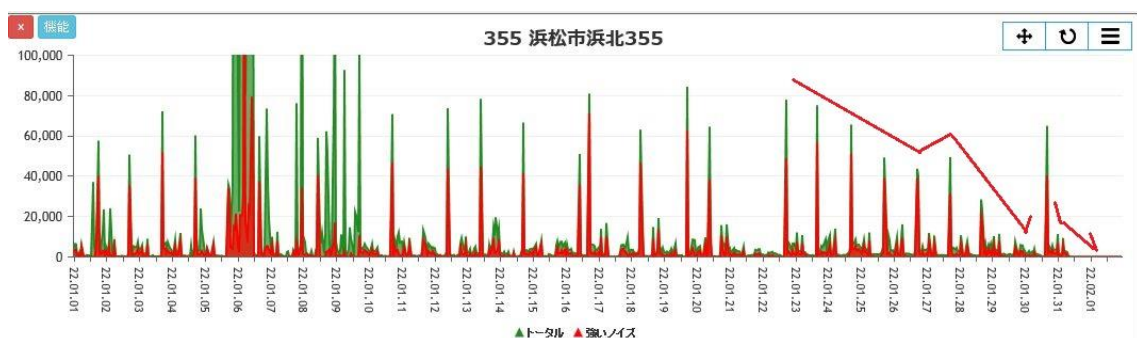
浜北 017 15 日間データ



浜北 355 60 日間データ



浜北 355 30 日間データ



浜北 017 と世田谷、伊勢 D484 の類似 > いずれも昨年 12 月末ごろからデータが急に増加。

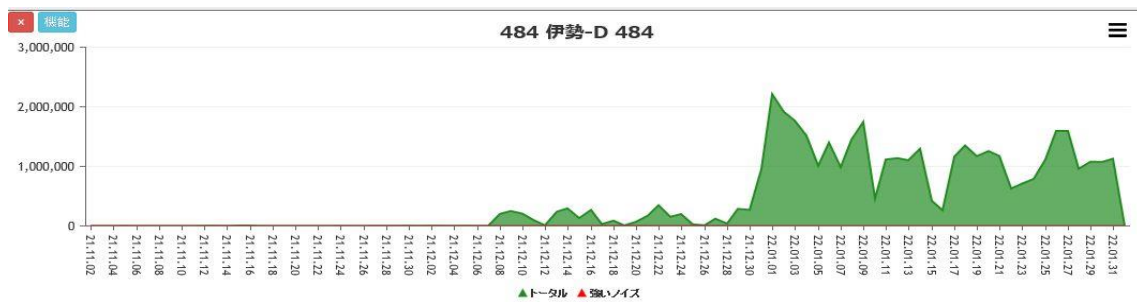
浜北 017 90 日間（日毎）データ



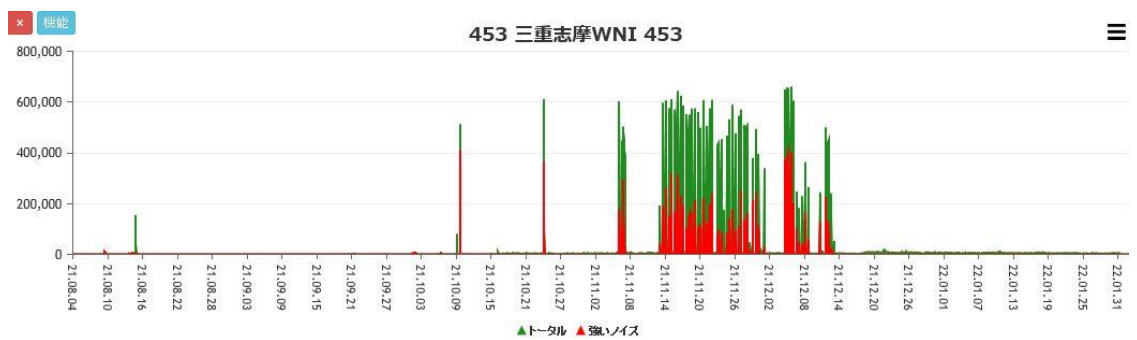
世田谷 90 日間（日毎）データ



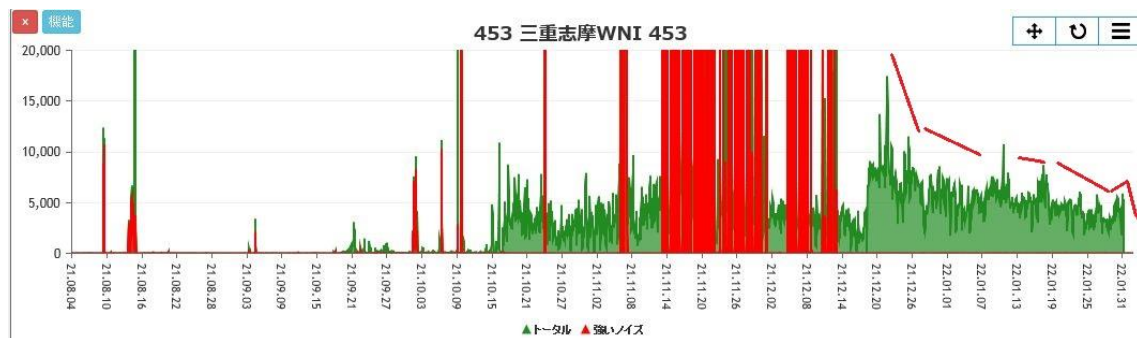
伊勢 D484 90 日間（日毎）データ



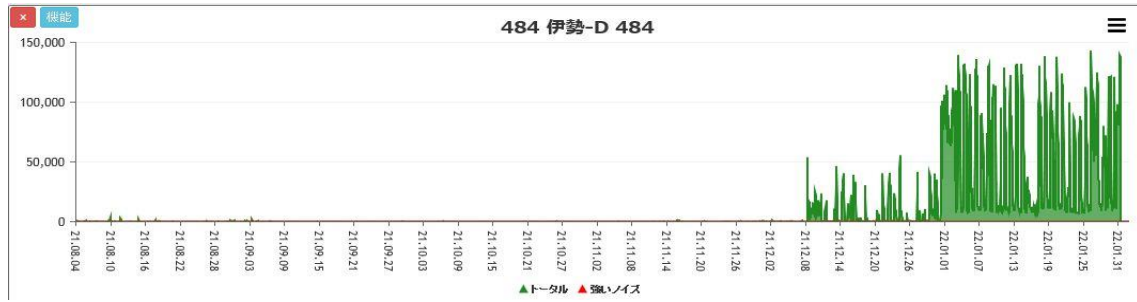
三重志摩 180 日間データ



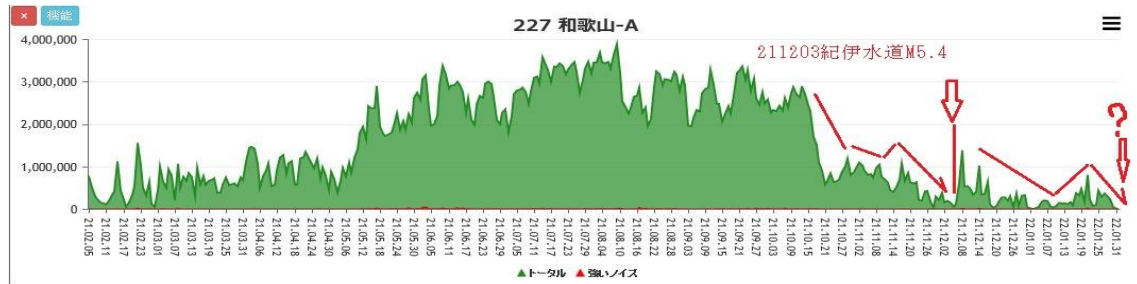
三重志摩 180 日間データ（拡大）



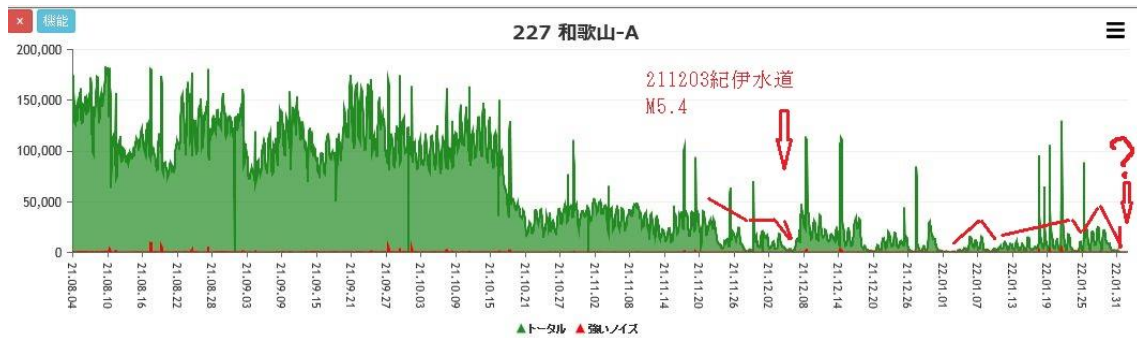
伊勢 D484 180 日間データ



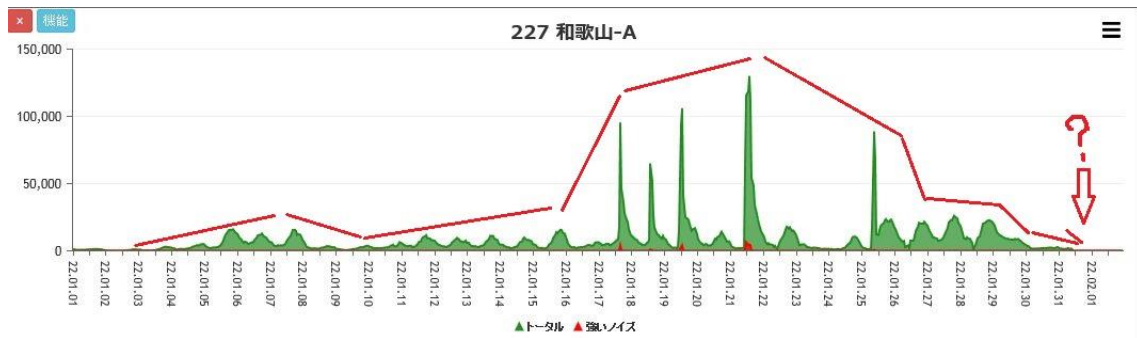
和歌山-A の減衰について > 和歌山-A 360 日間 (日毎) データ



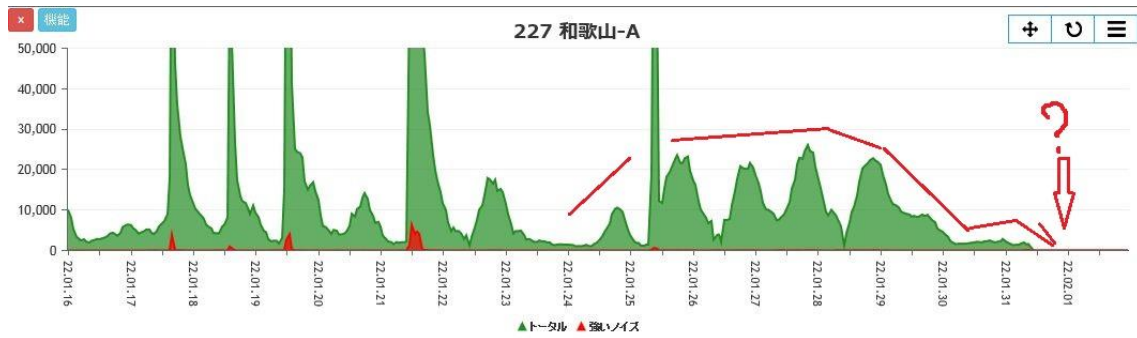
和歌山-A 180 日間 (日毎) データ



和歌山-A 30 日間



和歌山-A 15 日間





参考：2022年2月の月齢

← PREV **2022年2月の月齢** NEXT →

2022年 2月 表示

今月(2022年1月)

日	月	火	水	木	金	土
		1 29	2 1	3 2	4 3	5 4
6 5	7 6	8 7	9 8	10 9	11 10	12 11
13 12	14 13	15 14	16 15	17 16	18 17	19 18
20 19	21 20	22 21	23 22	24 23	25 24	26 25
27 26	28 27					